

平成 23 年度 第 2 回被服学教育 FD/ICT 活用研究委員会 議事概要

I. 日時 : 平成 23 年 10 月 1 日 (土) 12 時 30 分から 17 時 00 分まで

II. 場所 : 私立大学情報教育協会事務局会議室

III. 出席者: 高部啓子委員長、阿部栄子委員、山口恵子委員、
田中早苗委員、軽部幸恵委員、鈴木美和子アドバイザー
(事務局) 井端事務局長、森下幹事、松本職員

IV. 議題: 学士力実現に必要な ICT 活用の授業モデル案のまとめ

1. 議事概要

第 1 回委員会時に再検討することになっていた 2 つの授業案を「被服学教育改善モデル (中間まとめ案 1 および 2)」としてまとめた。概要は次の通り。

まとめ案 1

「被服材料の特性を理解し、被服設計への応用と被服デザインの着用表現ができる」ことを被服学教育における学士力の到達目標とする。

関連科目間の連携による統合授業により、被服材料特性と被服のデザインや設計との関連性を理解させ、実践的に活用できる力を身に付けさせることを授業のねらいとする。

材料・デザイン・設計の流れを体現する実験・実習を行うために、被服デザイン、被服材料、被服設計の担当教員が共通理解のもとに協働授業を行う。教員による学習成果の評価、外部評価によって学習の到達度を確認する。

被服設計におけるデザインと被服材料の造形特性の関連を考えるために、実在の商品・作品・文献を調べたり、市場調査を行ったりするのに ICT を活用することができる。これにより、世界中の衣服材料およびアパレル製品の情報を活用して、材料特性とデザインの関係を理解することが可能になる。外部評価を受けるにも ICT は有効である。これにより学びの通用性を確認し、創作意欲を高めることができる。また、関連科目の教員同士の意識合わせと協働が可能になる。

以上のような ICT を用いた学習環境として、教員同士が協働するためのプラットフォームや外部とコラボレーションするためのクラウド環境が必要となる。また、授業運営上の課題としては、教員同士が協働する仕組み、大学間、大学と産業界との連携の仕組み、大学内の上級学年生による学習支援を組織的に行う仕組み、学生の作品の著作権保護のシステム化が必要となることが挙げられる。

まとめ案2

「繊維、アパレル産業における、流通の仕組みと企画設計までのプロセスを理解することができる」ことを被服学教育における学士力の到達目標とする。

産業界との情報交換と実体験を基盤とした産学連携の授業を展開し、実践的な商品企画能力の開発を目指すことを授業のねらいとする。

産学連携を行うために、大学と産業界が共通理解を深め、目標達成のために役割分担を意識合わせし、協働する仕組みを作る。

産業現場のフィールドワークを実施することで、現場の生産プロセスを把握・理解することができる。その際、事前に産地や企業をリサーチさせ、フィールドワークすべき内容を絞り込ませるのに ICT を活用することができる。バーチャルカンパニーを設立し、ブランドプランニングを行い、商品化を目指すにも ICT が有効である。商品化を目指すことで、学生のモチベーションの向上が期待される。ICT を用いて一連の学びをプラットフォーム化することで、教員―学生―産地・企業との連携をリアルタイムで行うことができる。また、学習成果をデータベース化することで、授業改善を促し、社会と呼应した企画に活かす事ができる。

以上のような ICT を用いた学習環境として、教員同士が協働するためのプラットフォーム、他大学、産地・企業とコラボレーションするためのクラウド環境が必要となる。また、授業運営上の課題としては、教員同士が協働する仕組み、大学間、大学と産業界との連携の仕組み、大学内の上級学年生による学習支援を組織的に行う仕組み、学生の作品の著作権保護のシステム化が必要となることが挙げられる。

2. 今後のスケジュールについて

本日まとまった案をインターネットで公開して、関係する先生方から意見を頂く。その意見を反映させて次回委員会において「中間まとめ」を確定させる。

以上